

G7 倉敷労働雇用大臣会合 アイビーで開かれる



▲中庭広場でのフォトセッション

4月22日と23日の2日間、倉敷アイビースクエア（以下、アイビー）でG7倉敷労働雇用大臣会合が開かれました。

G7サミット（主要国首脳会議）は、フランス、米国、英国、ドイツ、日本、イタリア、カナダ（議長国順）の7カ国、および欧州連合（EU）の首脳が参加して毎年開催される国際会議です。

世界経済、地域情勢、さまざまな地球規模課題等その時々国際社会における重要な課題について、自由、民主主義、人権などの基本的価値を共有するG7各国の首脳が自由闊達な意見交換を行うもので、今年は広島で5月19日から21日の3日間開かれました。

G7労働雇用大臣会合は、G7サミットに関連して開催される閣僚会合で、雇用・労働分野の諸課題についてG7の閣僚間で議論を行うものです。

G7サミットや関係閣僚会合については、各種報道がなされていますので、皆さんご存知のことと思います。本稿では開催地としてのアイビーの様子についてご紹介します。



▲エメラルドホールでの会議

昨年10月にこの会合が倉敷で開催されることが決まりました。それから半年間、関係各所と協議を重ねながら準備してきました。

実はアイビーでのG7閣僚会合は2016年の教育大臣会合に次いで2回目です。従って、「ある程度は要領がわかっている」はずですが、本番まではこちらまごまごとした確認事項がたくさんありました。

4月21日午後から23日午前は一般のお客さまが完全に入れない状態になりました。正門、西門は閉鎖し、警備スタッフが常駐します。また、われわれ従業員の出入り口も厳重な警戒体制



▲議長を務める加藤厚生労働大臣

下におかれます。従業員用のIDカードが発行され、これを提示しないと入場できません。さらに、各出入り口には金属探知機が設置され、これを通る必要があります。

また、準備期間中は幾度となく岡山県警の方々が警備について多方面の指導、点検、確認に來られました。

そして動線の確認です。どなたが、どこで、どのように各国代表をお迎えるか。そしてメインの会場場所であるアイビーエメラルドホールへご案内するルート等。

エメラルドホールは2018年にオープンした倉敷で随一の規模を誇る大型宴会会場です。前回会合の後に作られましたので、G7の会議場としては初めての

利用となります。電源、スクリーン、インターネット環境等々の設備の更新や新設が必要になりました。

22日夕方は加藤厚生労働大臣主催のエクスカージョンとして、倉紡記念館の見学がありました。今回、労働雇用大臣の会合ですので、クラブウが労働環境改善に注力していたということ、特に大原孫三郎が日本初の労働衛生に関する研究機関「倉敷労働科学研究所」を設立したこと、従業員的生活環境改善のために「分散式家族的寄宿舎」や保育所、託児所等を取り入れたこと、また、従業員とその家族の健康管理のために「倉紡中央病院」を建設したこと等をご紹介します。

各国代表の方々もクラブウが100年も前にこのような取り組みをしていたことにも興味を持たれていました。実はこの記念館ご案内にも裏話があります。当初、通訳も入られて約30分でご案内できるようなシナリオを何度も厚生労働省とやり取りをしながら作成しました。しかし、20分程度に短縮したバージョンのシナリオに作

り直したものの、当日は前のセッションが押ししていたこともあり15分程度に調整することになりました。さらにご案内の途中、ある方の同時通訳用のイヤホンに不具合が発生してしばし中断するなどのアクシデントもあつたのです。

何はともあれ嵐のような2日間が、大きなトラブルもなく無事終わったことに従業員一同ほっと胸をなでおろしたことでした。おそらく、厚生労働省や岡山県、倉敷市、岡山県警その他関係された方も同様ではないでしょうか。



△代表をお出迎え
左から藤原社長(アイビー)と藤田社長、伊東倉敷市長

さて、このG7サミットは各国持ち回りなので、7年ごとに議長国が回ってきます。次回は2030年。果たして倉敷で閣僚会合が開かれるでしょうか。期待？はたまた不安？

(倉敷アイビースクエア
総務部 高橋 亮輔 記)



△倉紡記念館をご案内
写真提供：(▲)厚生労働省、(△)倉敷市



△正面玄関の両脇に各国の国旗を掲揚